日射病・熱射病の予防方法

牛の病気は多種多様です。これからの時期に発病しやすい日射病・熱射病の予防方法を紹介します。

高温多湿、密飼いなどのために体温の発散が阻害されたりした時などに発生するものを熱射病、炎天下に直射日光を長時間にわたり受けた時に発生するものを日射病と呼び区別していますが、両者は同じ疾病として取り扱われる場合が多いようです。

炎天下の放牧で日射病となった牛

原因

一、熱射病は厳しい暑さのときに、畜舎の換気不良・密飼い・給水不十分な高温多湿時に発生しやすい。

二、日射病は炎天下の直射日光が直接的原因であり、家畜を急に炎天下に放牧すると発生しやすい。

症状

一、熱射病は疲れてだるいような状態になり運動障害がみられ、日射病では突発的に四一度以上の発熱を伴って発症する場合が多く日中より夕方に多発する。

二、元気が無くなり食欲不振及び反芻（二度がみ）をしなくなる。

三、よだれが激しく出たり、口を開けて呼吸、呼吸数の増加及び困難がみられ、脱水症状を起こすことが多い。

四、フラフラしたりする神経症状が発現することが多く、早く処置しないと死亡に到ることがある。

元気がよく、口を開けたまま呼吸し、よだれが激しくなった症状の牛

予防法

一、暑さが厳しい晴天の日の放牧はできるだけ避ける。

二、畜舎内は風通しを良くするような工夫をし、冷水を十分給与する。

三、屋根や地面からの輻射熱をさえぎるため、畜舎周辺に光をさえぎる幕を取り付けたり、屋根への散水を行うなどして畜舎内の温度を下げるよう工夫する。

四、畜舎内外に散水を行うと共に牛に冷水をかける。

五、濃厚飼料のやり過ぎに気をつける。

六、下痢をして脱水症状を起こしている牛や熱のある牛は、特に注意が必要。

七、早期発見、早期治療に心掛ける。

以上のことに気をつけて、暑い夏を乗りきりましょう。